

◆ 秋の夜長と… ◆

「中秋の名月」は満月であるという思い込みがあったのだけれど、9月21日の満月は2013年  
以来とのこと。日中はまだまだ夏を思わせるような日もあるが、朝夕はめっきり秋らしくなってきた。  
「秋の日はつるべ落とし」のことわざどおり、季節は正確に歩を進める。

感染者数が徐々に減ってきたこともあり、学校は今週から分散登校になっている。午前と午後  
に分け、ゆっくりゆっくりと学校を再開する。poco a poco…



この季節に相応しいのはやはりブラームス。晩年の作になるクラリネット  
五重奏曲は晩秋の風情を漂わせる。ベートーヴェンを意識するあまり最  
初の交響曲を完成するまで二十年以上かかったと言われている彼の曲  
は、緻密で堅牢な構造物を思わせるところがある。映画にも使われている  
ため第3楽章がよく取り上げられる3番交響曲は、6拍子の第1楽章  
の拍の捉え方など本当になってしまう。よく譜面を見ないと、曲がどのように繋がっていくのかすらわ  
からなくなる。

学生時代に所属していた大学オーケストラの定期演奏会が、昨年の秋に続き中止となってし  
まった。メインとなる曲は、ブラームスの第2交響曲。オーストリア南部、ヴェルター湖畔のペルチャッ  
ハという風光明媚な場所で紡がれたこの曲は、最初の交響曲に比し驚くほど短期間で作曲され  
たという。評論家の吉田秀和氏は「この曲は、昔から、私があらゆるブラームスの音楽の中で最も  
好きなものの一つだった。いまでも、これが好きだったかと振り返ってみると、それは私が、ここに、  
伸び伸びと流れてやまない解放感の明るさ、生き生きとした豊かさを感じていたからだったような気  
がする。」と書いている（『ブラームス』河出文庫）。

「生き生きとした豊かさ」…、学生たちが今一番追い求め、そして学校がその教育活動の中心  
に位置づけたい要素…、開催できたらどんなにかよかったですらうと思わずにはいられない。今後の学  
校行事、できるだけ対策を施しながら、この「生き生きとした豊かさ」を子どもたちに味わわせてあ  
げたい。

しばらく分散登校の日々が続く。秋の夜長をブラームスの曲と過ごすのもまた一興である。